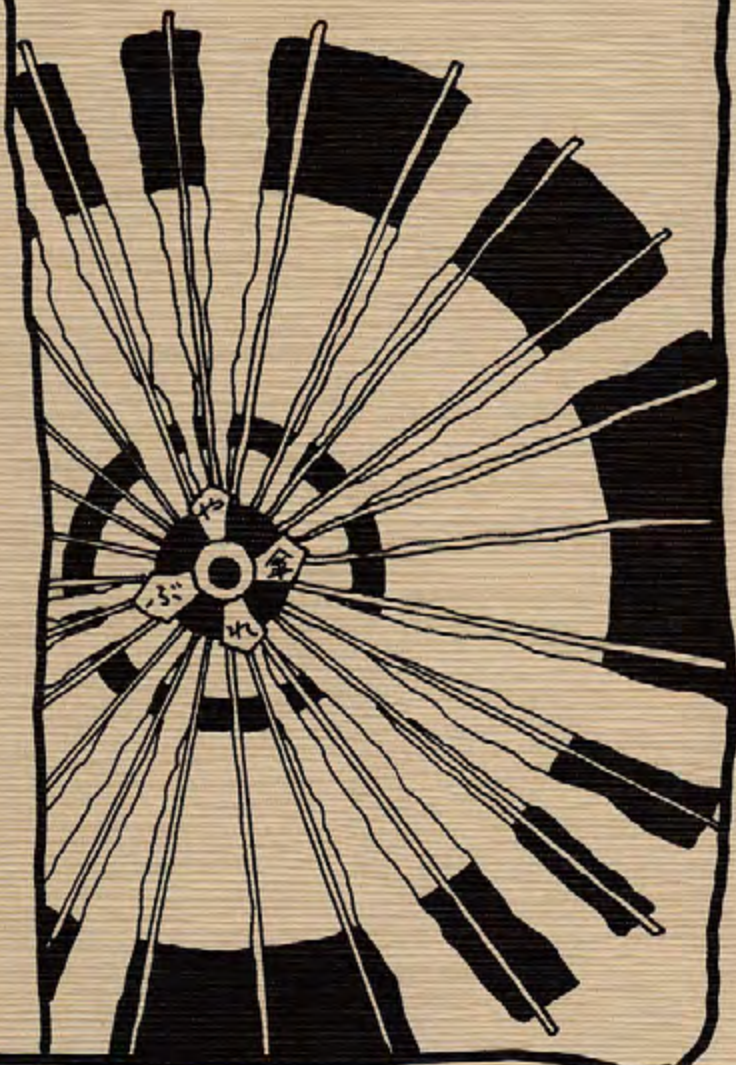


やぶれ傘



一〇五号

二〇一八年十二月

ただいまの声がどこかに花八つ手 根橋宏次

この家に二坪ほどの菊の庭 大島英昭

塩むすび食ひたる指で食ふ林檎 きくちきみえ

百合の樹のその上にある冬の空 青谷小枝

山の田に小さき稲架の立ちにけり 廣瀬雅男

壁赤きインドカレー屋秋日差 丑久保 勲

処方薬待つ間時雨れて来たりけり 安藤久美子

お蕎麦屋のカレーサンプル冬ぬくし 小山よる

ながめゐる庭の片隅石路の花 白石正躬

一羽増え八羽の鳩が溜池に 渡邊孝彦

おくんちや旅所の紙垂の風に揺れ 天野美登里

茶の花や空濠残る館跡 瀬島洒望

黄落へ電車のドアを手で開けて 藤井美晴

十月や一枚硝子磨きこむ 有賀昌子

側道に尾灯つらなる秋の暮 秋山信行

抄 集 句 傘 大 崎 紀 夫 選

秋の蚊を叩けばわが血われを染め 松村光典

雲の端に入り日の名残り冬に入る 齋藤朋子

宮参りの子は泣き通し秋うらら 時田義勝

あたたかき十一月の廻り道 中島和子

都鳥の飛交ふ中を曳航す 野口希代志

榎植の実土うつ一度きりの音 武藤節子

秋の宵風呂の温度を一度上げ 森美佐子

ブランターの短き畝に大根蒔く 山本久枝

雨あがり山茶花の花葉にこぼれ 湯本正友

無人駅のホームは無人雁渡し 浅嶋 肇

秋晴れや見知らぬ人の会釈受け 安齋正蔵

ポケットに溜まるどんぐり山路来て 奥田温子

無花果を煮てをり電話よく鳴る日 上林富子

校庭の隅に一間ほどの稲架 倉澤節子

雲割れて十五夜の月能登瓦 黒澤次郎

冬の鳴

大崎紀夫

草虱つけて新宿駅にゐる
釣りやめてひとり自然薯を掘りに
梁舟に差し潮のとき来たりけり
木道の下を水ゆく沢桔梗
まだ皿に秋刀魚の骨がのつてゐる

菱採りの舟ずるずると揚げらるる
一位の実ふふみて寺を去ることに
子らの列稲架の向うにかくれけり
藁塚の日向で三時間眠る
星ひとつ出てみて沖に雪起し
山茶花の垣を曲がれば裏の川
竹藪のそばの木にゐる冬の鴟

花八つ手

根橋宏次

みちばたのところどころに月の客
つぶあん派こしあん派ゐて秋彼岸
みちばたのどの草となく末枯て
鳥渡る車窓の山は遠きまま
柚餅子など朝市のものざつと見て
港湾の埠頭に倉庫雁渡し
前山のはたと暮れたる菊脛
消しゴムの角を使つてゐる夜寒
金柑の一つ一つにぼつぼつ日
ただいまの声がどこかに花八つ手

秋ざくら

大島英昭

あ
た
り
に
は
五
六
世
帯
が
秋
ざ
く
ら

花
オ
ク
ラ
毎
時
一
ミ
リ
ほ
ど
の
雨

鉄
パ
イ
プ
地
に
落
つ
る
音
桐
一
葉

新
し
き
荊
棘
線
ひ
か
る
野
紺
菊

笹
垣
の
前
に
軽
ト
ラ
鴉
の
こ
ゑ

五
六
軒
秋
明
菊
を
咲
か
せ
た
る

こ
の
家
に
二
坪
ほ
ど
の
菊
の
庭

棕
の
木
の
幹
に
日
の
あ
る
冬
隣

枝
道
に
墓
所
あ
り
冬
の
鴉
が
鳴
き

少
し
づ
つ
道
は
狭
ま
り
お
茶
の
花

林 檜

きくちきみえ

秋の宵マルゲリータが窯を出る
秋刀魚食ぶ真ん中らしきところより
風のごゑ追ふかに鳴いてつづれさせ
潜水艦ゐるといふ海いわし雲
竿に干す柿とズボンとシャツと柿
釣り人の後ろは冬田空あをく
日向ぼこうかと口笛吹いてをり
吹きだまるところ陽のある酉の市
ジャズ聞いてボジョレーヌーボー解禁日
塩むすび食ひたる指で食ふ林檎

冬の空

青谷小枝

提げて打つトライアングル秋の風
種採るとゴーヤの棚を引き下ろす
ぎんなんを潰し自転車来る夜道
十三夜シャボン細かく泡立てて
部屋隅に溜る暗さや虫の声
種茄子のつひのひとつが罅割れて
小春日の杳脱石に猫がゐて
グリーンサラダ冬の日差しを窓越しに
草枯れて雀が四五羽おりて来る
百合の樹のその上にある冬の空

稲架

廣瀬雅男

雨上がりたり赤とんぼ群れ来たる
熱き茶を飲めば遠くに百舌のこゑ
柿の実の下に手押しの耕運機
山の田に小さき稲架の立ちにけり
畦ゆけば冬たんぽぽの二つ三つ
花八手算の水の音近く
大根の首に日当たる畑かな
大根干す連なる山を遠く見て
小春日の空へ突き出す亀の首
枯れ葦の向うタンカー一浮かぶ海

秋日差

丑久保勲

鉄骨の崩れゐる音 鱗雲
じやがいもの無人売りに地玉子も
子と親と習字教室 菊の花
壁赤きインドカレー屋 秋日差
六本木よりはるか都庁を秋夕焼
電柱と屋根くろぐろと秋没日
灯籠の天辺にゐる赤とんぼ
カレー屋のカレーのほふ石路の花
大曲りして小淵沢山紅葉
駐車中の車の上を秋の蝶

時 雨

安藤久美子

珈琲とハザードマップ小鳥来る
夕暮れの風が音立てななかまど
稔りたる稲穂を配る地産展
冬の日のアタッシェケースどかと床
丸窓は冬日たつぷり階段へ
浮寝鳥ベンチに人の居眠れる
ベイズリー柄のシヨールを長椅子に
処方薬待つ間時雨れて来たりけり
農園の野菜のビュッフエ冬の朝
生垣は低し山茶花紅ばかり

冬 日

小山よる

秋深ししつつこさうなパンばかり
秋晴れの物干し竿にぬひぐるみ
吊り革に頭ぶつけて秋暮れて
道なりに曲がる白線 秋日差
秋暑しガードレールの供花古りて
長き夜は工事の音がするばかり
電車待つ場所は冬日の差すあたり
冬 灯 昼 間 使 ひ し 匙 洗 ふ
お蕎麦屋のカレーサンプル冬ぬくし
境内に程よき数の落葉かな

石路の花

白石正躬

雲たれて雲の中なる秋雲雀
秋暑し棚におきたる鉦の鏝
渡船場の幟へ秋の雨しきり
雨音の中より虫の声ひとつ
背丈ほど伸びしコスモスこれを伐る
日の暮に少し足早いわし雲
朝月の残る河辺の露踏んで
芋の茎並べ干しする納屋の軒
ながめぬる庭の片隅石路の花
遠山と鴨の群れみて帰りけり

鳩

渡邊孝彦

電線が左右に延びて葛の花
風草に薄日のさして浮塵子来る
ひつぢ田に稲架用パイプ束ねられ
きささげの実や本堂はずつと奥
不揃ひに藁に塚ほ並べられ鳩のこゑ
岩に亀岸に背高泡立草
実紫森の案内板脇に
立冬の晴れ間ひろがる昼下がりに
境内を二回りする神の留守
一羽増え八羽の鳩が溜池に

茶の花

瀬島洒望

曼殊沙華咲き電柱に変圧器
実に届くまで柿の枝撓めけり
軽トラで来て柿を売る店を出し
ちと飛んでちと飛んでゆく秋の蝶
雁渡しし角館にて宿を取る
卵塔は日の斑の中に落葉降る
床の間に杜鵑草活け風炉名残
掌に零す紫式部の実
草枯れて五つほどなるもぐら塚
茶の花や空濠残る館跡

冬晴れ

藤井美晴

小^こ葉^ば団^ち扇^わ楓^{かえ}紅葉や山晴れて
紅葉観て産地直売野菜買ふ
突き出しは秋刀魚の煮付地酒飲む
一位の実踏まれし色が敷石に
黄落へ電車のドアを手で開けて
冬晴れの信濃追分駅に着く
せせらぎと櫛の落葉を踏む音と
末枯るる庭に砥石とゴム長と
日溜りの枯草に寝る他所の猫
タンポポの返り咲きたる白秋忌

紙垂

天野美登里

おくんちや旅所の紙垂の風に揺れ
軽トラツクの轍の深き刈田かな
稲の穂に風重く来て軽く抜け
秋雨のビルに電光掲示板
鎌祝ひひと皿どんと卵焼
杉の実や水音遠く聞え来る
山に日の残り畑は蕎麦の花
笹の目に繕ひ跡が大豆干す
秋晴れの「かわち屋」といふチンドン屋
小春日のシフォンケーキが焼きあがる

十月

有賀昌子

新蕎麦も蕎麦湯も旨し信濃にて
無人駅舎に落栗のありにけり
そぞろ寒栗鼠のふくらむ頬袋
掘建て小屋崩れ背高泡立草
プランターの秋茄子風に揺れてゐる
磴を行く傍に紫式部の実
幾曲がり雑木紅葉の中を来て
十月や一枚硝子磨きこむ
指定席は银杏黄葉の降るテラス
切株の椅子のさまざま虫の声

秋の夜

秋山信行

高原は霧に明けゆく白樺
堀越しに熟柿の垂れる曲り角
側道に尾灯つらなる秋の暮
秋耕やひと畝ごとに背を伸ばし
アンテナはみな同じ向きいわし雲
撮るまへの笑顔がよろし七五三
秋の夜の電池切れして置時計
自転車にまとひつく犬糸のこづち
紅葉且つ散る忍城の曲輪かな
「さよなら」を遺して母は冬の星

日溜り

松村光典

満月が雲搔きわけける神無月
日溜りを楽しむ秋となりにけり
庭になる葡萄葡萄ひと粒おゝ甘い
秋の蚊を叩けばわが血われを染め
また一つ歳を取るなり文化の日
洗つても洗つても皿我が秋は
秋うらら散歩するしかなき我に
銀杏を踏んで潰して歩きけり
コスモスも疲れの見ゆる頃となり
さくら並木もみじ並木となりにけり

◇ 1月・2月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
1月	4日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン5	丑久保 勲
	8日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	8日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン4	瀬島 孟
	9日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	19日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	26日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	26日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
2月	1日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	1日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	4日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	5日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	5日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	瀬島 孟
	16日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	17日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	大宮第2公園の梅園	丑久保 勲
	23日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	23日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

[注] ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

1月のNHKは3月29日(金)に変更。

2月17日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR大宮駅・

中央改札口を出て案内所前。吟行地は大宮公園・第2公園の梅園。

句会場は武蔵浦和コミセン第1集会室。

◎連絡先 瀬島 孟 ☎ 048-862-2757 藤井美晴 ☎ 0422-55-2733
 大島英昭 ☎ 048-592-5041 WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
 廣瀬雅男 ☎ 048-443-7522 丑久保 勲 ☎ 048-853-3856